

第 7 回アイヌ文化環境保全対策調査委員会
概要と論点

日 時： 平成 16 年 8 月 28 日（土）10：05～12：05

場 所： 沙流川歴史館レクチャーホール

出席者

委員	辻 井 達 一	財団法人北海道環境財団理事長〔委員長〕
	岩 崎・グッドマン・まさみ	北海学園大学人文学部教授
	大 塚 和 義	国立民族学博物館教授
	川 上 勇 治	平取町二風谷アイヌ語教室運営委員長
	常 本 照 樹	北海道大学大学院法学研究科教授
	福 岡 イト子	財団法人日本私学教育研究所客員研究員
	川奈野 惣 七	社団法人北海道ウタリ協会平取支部長
	西 島 達 夫	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	鍋 澤 保	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	露 木 忠 吉	社団法人北海道ウタリ協会平取支部副支部長
	中 道 善 光	平取町長
	平 村 正	平取町教育委員会教育長
	奥 野 均	平取町議会アイヌ文化伝承推進特別委員会委員長
	村 上 晃	平取町文化財審議会会長
事務局	島 田 正 一	平取町教育委員会文化財課長(事務局長)
	貝 澤 一 成	平取町教育委員会文化財課主幹(事務局補佐)
	吉 原 秀 喜	平取町教育委員会文化財課主幹(事務局次長)
調査室	貝 澤 耕 一	調査指導員

配布資料： 第 7 回アイヌ文化環境保全対策調査委員会 次第

第 7 回アイヌ文化環境保全対策調査委員会 会議出席者座席図

作業課題・項目ごとの進捗状況（2004 年 8 月 25 日まとめ）

はじめに（調査作業について）

資料 1：聞きとリンク・グループのグループとしての調査目的

資料 2：調査の対象について

資料 3：聞き取り内容

資料 4：聞き取り調査の流れ

資料 5：利用状況表（植物・生物、神事関連、土地利用状況）

資料 6：聞き取り関連地図（総合 1 枚＊関係者向けは個別 5 枚も含む）

資料 7：聞き取り情報抜粋（抜粋、抜粋と文献の突き合せ）

資料 8：食実践グループの実践記録 2 例

資料 9：聞き取り協力者数、調査状況、現在の進捗状況

資料 10：聞き取りによる植物・生物利用カレンダー

まとめ（調査作業について：貝澤耕一指導員）

ランコ 4

アイヌ文化環境保全対策調査委員会報告書の構成（私案）：大塚和義委員より提示
平取ダム環境調査の概要・委員会委員構成：追加配布

調査項目別スケジュール表（平成 11 年度～16 年度）：追加配布

沙流川流域検討委員会委員メンバー構成と経緯：午後の自由懇談会にて追加配布

- 議 事：
- 1 委員長挨拶・議案提起
 - 2 開会挨拶
 - 3 報告・説明事項
 - 1) 調査作業進捗状況について
 - 2) 中間報告作成のための基本的見解策定に向けた手順の確認
 - 3) データ分析（事例 1）＝聞き取り調査資料を中心に
 - 4 全体質疑・討議
 - 5 閉会まとめ

内 容

- 1 委員長挨拶・議案提起 辻井委員長
 - ・ 井上典子委員が 8 月 1 日付けで文化庁採用になったため、本人より辞任届を受領した。
 - ・ 今後、可能であれば、文化庁の立場で委員会に参加いただけることがあればとも考えている。
- 2 開会挨拶（略） 中道町長
- 3 報告・説明事項
 - 1) 調査作業進捗状況について（略） 吉原主幹
 - ・ 資料「作業課題・項目ごとの進捗状況」参照
 - 2) 中間報告作成のための基本的見解策定に向けた手順の確認（略） 吉原主幹
 - ・ 中間報告書作成に向けたフロー（流れ）図 A 案・B 案 参照
 - 3) データ分析（事例 1）＝聞き取り調査資料を中心に（略）
 - ・ 資料「はじめに」資料 1～10 参照 平村調査員
 - ・ 資料「まとめ」 貝澤指導員
- 4 全体質疑・討議 （以下、A～E は発言者を指す）
 - A
 - ・ これまで、調査対象の項目立てができていなかったのではないか。
 - ・ 今後は、調査のねらいを定めるべきではないか。
 - B
 - ・ 平成 15 年度報告書を先日頂いて見たところ、「目次 13 調査に対して寄せられた資料、意見」の 1 つ目の論文は自分の未完成の論文が 24 頁にわたって本人の承諾を得ないで掲載されていた。削除してほしい。
 - ・ 同じく目次 13 の資料リストに掲載された自分の 10 の論文は、リストだけでなくすべて現物を入れてほしい。
 - ・ 国際影響評価学会（IAIA：カナダ）に貝澤耕一指導員とともに出席して発表した報告も掲載してほしい。
 - ・ 平成 15 年度は、平取町での住民参加による調査を海外に通用するものにしたいと調査室に何度も足を運び調査の方法を説明してきたが、報告書には 1 頁のリストしか記載されていない。昨年の作業の成果を反映させてほしい。
 - ・ 今後、調査委員会の信頼関係が維持継続されるように平取町として姿勢を確認してほしい。

- 委員長 ・「調査概況報告書」の位置づけは何か。
- 事務局 ・本事業の発注者である室蘭開発建設部に平成 15 年度の状況報告をしたものである。
 ・概況調査報告書は、分量が多いこともあって、限られた委員にのみお渡しして全員に渡していないもので、公表はしていない。
- 委員長 ・論文の掲載は、岩崎先生の言われるとおり本人の了解を得るべきものであるし、掲載する際も出典を明らかにすべきである。また、無断で加工してはならない。
- A ・岩崎先生の断りなく掲載された論文は、削除すべきである。
 ・本調査委員会はこれまで、議事録が出されていない。
 ・これまでも調査項目を立てるべきだと話してきたが、議事録が出ていないような状況から、会議の結果が積み重ねられていない。
- 委員長 ・今後中間報告を作成していく上で、議事録の作成などきちんとしていくべきである。
- B ・本調査は、アイヌ民族の文化享有権が平取ダムの建設によって失われることを事前に評価し、その影響を軽減するために方策を立てることが目的であり、調査室とその目的について話し合いをしてきたが、報告書にはそのことが反映されていない。
 ・今後は、調査室が報告書原案を作成して委員会で議論していくべきである。
- A ・（「アイヌ文化環境保全対策調査委員会報告書の構成（私案）」を説明：略）
 ・保全措置については具体的にふれなくてよいと思う。
- 委員長 ・（「作業課題・項目ごとの進捗状況」は）調査項目が先で概要が後にくるべきと思う。
- A ・調査室スタッフに環境アセスメントの研修をしていなかったのは平取町の責任である。
 ・調査室に聞き取りをしたところ、スタッフが自分の置かれている状況が見えていない。
- 委員長 ・大塚先生が作成された目次案のようなものがあるとわかりやすい。そのようなものがないと、調査とデータとのつながりがわからなくなることが多い。
- C ・大塚先生の構成（私案）に書かれている「アイヌ文化に対する他者の認識」は大事だと思う。アイヌ文化はアイヌだけのためのものではない。古くから住んでいる和人の方が昔のアイヌ文化のことをよく知っていることがある。アイヌ文化は地域のものとしてみる必要がある。
- D ・儀礼の場所をどのように保存していくかが重要である。
- A ・ダム建設地に対する住民の意向を報告書に反映させることが必要。
 ・本調査とイオル構想の境目があいまいになっている傾向がある。国においてもイオル構想の委員会が設置されることになったことから、本調査においては、イオル構想と平取ダム建設に伴う影響評価を峻別するべきである。
 ・平取ダム建設に関連する他の委員会の状況が委員に知らされていない。全体の見取図が示されていない。資料を提出してほしい。
- B ・現在行われている作業は、現状の調査という段階にある。
 ・本調査は、ダム水没により失われるものを推測していくことが必要。環境影響評価の報告書では、他の事例を引用することが多い。ここでは二風谷ダムの事例を引用することが適当だと、調査室にもすでに説明している。失われるものとして水没地区は明らかであるが、水没地区以外の失われるものを推測することが必要になる。
- E ・目次案と調査室データのすり合わせを今後行っていくことが必要と思われる。

- ・大塚先生のお話では本調査とイオル構想を峻別すべきであるとのことであったが、イオル構想との関連性はあると思っている。
- 委員長
- ・本委員会は、平取ダム建設の可否を論ずるものではない。
 - ・本調査の目的は、平取ダム建設が現存するアイヌ文化に与える影響の評価を行い、アイヌ文化を将来に引き継ぐことについて検討することが目的である。
 - ・イオル構想との関連性はあると考えている。
 - ・大塚先生による報告書の構成私案は中間報告書のものと思われるが、中間報告書は本報告書に引き継がれるものであることから、あらかじめ本報告書を想定して作成する必要がある。本報告書は、中間報告書にさらに付加して厚くなったものというイメージと思う。
 - ・事務局から説明された、中間報告書の作成に向けたフロー図で、小委員会を設けないA案と小委員会を設けるB案について、事務局はどちらの方が都合がよいのか。
- 事務局
- ・どちらとも言えないので、委員会で協議願いたい。
- 委員長
- ・メンバーを固定しないで変わることがあり得るという小委員会的な形で、委員の方々になるべく関わっていただくことにしてはどうか。言わば、起草委員会的なものとも言える。
 - ・大塚先生から提案のあった、他の委員会のメンバーや他の委員会との関係づけ、本委員会の位置づけについて明らかにした資料を事務局に今後提供願いたい。

【第7回調査委員会のまとめ】

(1) 平成15年度概況調査報告書について

岩崎委員の無断掲載の論文は削除する。リストのみの論文は、原文を掲載する。
岩崎委員と貝澤指導員の海外報告の資料を掲載する。

(2) 調査委員会の目的と内容

本委員会は、平取ダム建設の可否を論ずるものではない。
本調査の目的は、平取ダム建設が現存するアイヌ文化に与える影響の評価を行い、アイヌ文化を将来に引き継ぐことについて検討することが目的である。
イオル構想との関連性は有する。

(3) 委員会議事録の作成と運営

発言者名が記載された議事録を作成し、委員に送付して確認を求める。
議事録をもとに、調査の進展を図る。

(4) 調査項目と中間報告書等の作成について

調査項目を検討する。
中間報告書目次案を作成し、項目とデータとのつながりを検討する。
調査室が主体的に中間報告書原案を作成していくにあたって、小委員会としてメンバーや回数を定めることはしないが、調査委員が中間報告書の作成に関わりを持つように努めていく。

(5) その他

調査委員に、他の委員会との関係を整理した資料を提示する。